

マタイの福音書 第6章 26節

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。」

車の進行方向にトンボが一匹飛んで行く。暑苦しい夏が過ぎつつある徴が飛んでいる。ほとんどの人は気付かないまま通り過ぎてしまう、たった一匹のトンボが秋のおとずれを告げ、見る者の気持ちを涼しく変えてくれる。それだけではなく、一匹のトンボを生かし、養い、羽ばたかせるお方がいることを澄んだ青空の下で証言する。時の移ろい、命の支えを証言する。

これを見ている者に天の父がいわれる。あなたがたは、トンボを見ているあなたがたは、これよりもすぐれたものではありませんか。空飛ぶ鳥やトンボと自分を比べて見る者はいないだろう。しかし、ここでは比べられている。どう見比べているのだろうか。

語りかけられている。祈られている。神の家族となるよう招かれている。帰って来なさいと待っていただいている。帰りの道を備えてくださっている。帰ったら宴が準備されている。途方もない愛で愛されている。